

平成29年度事業目標に対する主な取り組みと実績

一 各事業所の取り組み

1. 特別養護老人ホームしろみの取り組み

(1) ユニットリーダー研修実地研修施設としての取り組み

初めての研修生受け入れであることから、先行研修施設の研修事例等の情報を収集しながら取りこぼしのない取り組みに留意した。

- ①主任等を中心に研修生受け入れまでに必要な取組項目・役割分担等を確認し工程表で進行管理をチェックするとともに、毎月のリーダー会議でユニットケアの勉強会や24時間シート等の点検を行った。
- ②平成29年7月から外部ボランティアに依頼し、サークル活動(カラオケ・手芸・おしゃれ・車いすレクダンス)を実施した。入居者自らが希望し選択する少人数での活動の場を提供することができた。
- ③平成29年12月～翌年1月にかけて10名の研修生を受け入れた。
- ④研修生に対し、ユニットリーダーからユニットケアの根拠・あり方等について適切な説明をすることができた。

(2) 24時間シートの一覧化・ケース記録の整備(暮らしのデータの充実)

- ①特養職員においては、24時間シート・ケース記録について各ユニット1事例の検討訓練を行うことにより完成できるようになった。
- ②多職種交えて定期的な検討会を行い、記録の充実が図られた。

(3) 災害・緊急時における体制整備

- ①入居者・家族・地域住民合同で、地震・火災想定避難訓練を実施した。

(4) 各ユニットの取り組み

① 草原ユニット

- ・ユニットリーダー研修生の受入に向けて、職員一丸で取り組むことができた。
- ・24時間シートの一覧化の整備を行うことで、1日の入居者の生活を明確にすることができた。

② あかねユニット

- ・ユニットリーダー研修生の受入により、日々のケアの見直しを行い、ケアの質の向上につなげることができた。
- ・24時間シートの更新を確実に行うことができた。

③ 山なみユニット

- ・ユニットリーダー研修受講後、ユニット職員に復命報告を行い、ユニットケアの知識共有を行うことができた。
- ・24時間シート一覧表を意識したケアの提供を行うように努めた。
- ・入居者はサークル活動に自主的に参加し、知己の方々との交流を深めることができた。

④ こかげユニット

- ・ユニットミーティングでは、24時間シートを基に情報の共有や検討を行うことができた。
- ・ユニットリーダー研修生を受け入れたことで、自分たちのケアの客観的評価を受け、見直すことができた。

⑤ 朝ぎりユニット

- ・ユニットリーダー研修生の受け入れを通して、見られている意識があり、緊張感をもってケアに取り組むことができた。また、ユニットケアを見つめ直す機会になった。
- ・実習生からの意見や質問により、普段気づかない点を知ることができた。
- ・24時間シートの更新者を決めたことにより、毎月更新することができた。

2. 短期入所生活介護しろみの取り組み

- (1)24時間シートに利用者、家族の意向等を反映し、サービスの提供を行うことができた。また、利用に伴うケース記録を24時間シートにさらに反映することで、一人ひとりの生活に沿った支援をすることができた。
- (2)季節に合わせたおやつ作り等のレクリエーション活動を行った。
- (3)居宅支援部(短期・通所しろみ・通所ほほえみ)が連携し営業活動を行うことができた。

3. デイサービスセンターしろみ・ほほえみの取り組み

(1) 事業所ごとの取り組み

① しろみ

- ・担当者会議や家族、利用者からの情報や意向を共有し、在宅生活を継続できるよう努めることができた。機能訓練指導員の指導を受け、身体機能に合わせた支援を多職種協働で行うことができた。
- ・喫茶店やしろみ行事への参加、日帰り旅行等を実施し、他利用者との交流の機会を設けることはできたが、地域との交流を深める機会が少なかった。

② ほほえみ

- ・認知症家族会や機能訓練指導員の指導の下、在宅生活が維持できるよう生活全般を通して支援を行うことができた。毎月の部門会議にて外部研修会や勉強会の復命報告を行い、認知症ケアに対する意識や知識の向上に努めた。

・年2回の運営推進会議では、家族の思いや家庭での様子を把握することができた。また、地域住民等が参加するなかで、ほほえみのサービス内容を詳しく伝える機会が得られた。

4. ケアプランセンターしろみ

- ・改善したアセスメント表を利用、課題分析し個別のニーズを把握することができた。情報伝達会議でケアプラン点検を実施し、担当以外の意見を参考にしてプランニングを作成できた。
- ・地域行事へ積極的に参加し顔の見える関係づくりを行い、地域のニーズの把握に努めた。また地区の民生委員との情報共有を図るため「語らん場」に参加した。

5. 職種別の取り組み

(1) 看護職員

- ・ユニットとの連携を図り入居者の健康維持のためのアドバイスをを行い、重度化予防に努めることができた。
- ・看護職員ごとにご利用者の担当を決め、看護計画の立案・更新を的確に行うことができた。
- ・看取り入居者の対応について、家族の要望に応えられるよう日々確認を行った。

(2) 機能訓練指導員

- ・利用者一人ひとりに対し、生活機能に重点を置いた個別機能訓練計画を立案、実施することができた。利用者によっては、加齢や疾病進行に伴う機能低下がみられるケースもあったが、その都度、利用者に応じた訓練計画となるよう修正を加えた。
- ・従来 of 集団体操のほか外部との交流を含むサークル活動を開始することができた。利用者の嗜好や適正を考慮し活動の定着を目指し、生きがいに繋げるよう努めた。

(3) 歯科衛生士

- ・歯科医師往診時に同行し、治療内容の把握に努め、ユニット職員へ適切な情報提供を行うことができた。
- ・ユニット職員へ清掃補助器具等を使用し、口腔ケアの仕方について指導を行った。

(4) 栄養管理職員

- ・朝食の牛乳を個人ごと200mlの提供からユニットでの1ℓ容量に変更し、個人の嗜好に合わせて量を調整できるように変更した。
- ・ユニットでの補食に冷凍パンを常備し、入居者の生活リズムに合わせた提供を行うことができた。
- ・厨房内のスチームコンベクションオーブンの調理マニュアルを作成し、調理の標準化を図ることができた。
- ・災害時の非常食として備蓄食品の整備を行うことができた。

(5) 運転士

- ・送迎前車両点検・整備を毎日行い、利用者の安全な送迎に努めた。
- ・送迎時には利用者が安心して利用できるよう、利用者・家族に対し、笑顔で挨拶を行うことができた。

(6) 環境整備職員

- ・利用者が快適に利用できる環境を整えることができた。
- ・ユニットリーダー研修実地研修施設の調査に向けて、多職種と連携し、環境整備を行うことができた。

(7) 事務職員

- ・事務職員に特養・短期・通所事業所の業務を体験させたことにより、ユニットや各事業所の1日の業務の流れやケア内容による必要人員を把握等を行うことができた。
- ・事務職員が初めて自衛消防大会に参加し、防災の意識向上につながった。
- ・労働形態に関係なく委員会活動を行い、地域貢献や利用者の生活の質の向上につながる支援を行うことができた。

6. 家族懇談会の実施

(1) 特別養護老人ホーム

11月18日(土)、夜間に大規模地震による火災発生との想定で災害訓練並びに意見交換会を行った。避難訓練後の意見交換会では、県央地域消防本部の職員から指導・助言に基づき、安全対策の検討を行った。

(2) 在宅(短期・通所・居宅)

家族教育及び家族支援の提供の場である認知症相談会、認知症家族教室(5月、9月、11月に開催)に参加、医療と福祉の連携を深めることができた。また、認知症のケアに携わっている事業所や関係者を対象にした研修会にも参加し、知識の向上と他事業所との情報交換に努めた。

7. 職員教育

施設内研修後のアンケートから各事業部ごとに職員教育やケア改善にむけて、検討や取組み等を行った。また、職員の資質向上のため、外部講師を招いての研修を計画・実施した。

二 地域との親睦・交流及び地域福祉の向上

①喫茶しろみ(第1木・第3水曜日)の際には、入居者との交流を深めるため、地域住民の方々にも参加してもらっ

た。

②北諫早小学校の児童との定期的なふれあい交流をはじめ様々な団体と利用者の交流を行った。

③城見町自治会31班長として町内会活動の中核を担うとともに、施設周辺清掃活動や児童の安全配慮に努めた。

④施設が行う夏祭りへの地域住民参加、本明川清掃活動、のんご祭り等への参加など、自治会の域を超えた地域活動に参加した。

三 介護報酬の動向

1. 特別養護老人ホームしろみ

(1)介護報酬は前年度の約24,441万円から約24,690万円へ、約249万円増加した。また、稼働率は前年度の99.0%から99.1%へ増加した。

(2)長期入院へとつながらないよう入院先の病院や家族との連携強化に努めた。

(3)平均介護度は前年度の4.1から増減なし。

2. 短期入所生活介護しろみ

(1)介護報酬は前年度の約9,643万円から約9,099万円へ、約544万円減少した。また、稼働率は前年度の97.4%から91.2%へ減少した。

(2)目標稼働率を設定したことで、稼働率を意識し、積極的に営業活動や情報提供を行ったが、目標値を達成することができなかった。

(3)重度の認知症や医療ニーズの高い利用者を積極的に受入れ、医療機関や居宅介護支援事業所との情報共有や適切なケアの提供に努めることができた。

3. デイサービスセンターしろみ

(1)介護報酬は前年度の約5,409万円から約5,396万円へ、約13万円減少した。また、稼働率は前年度の78.4%から76.3%へ減少した。

(2)1月～2月のインフルエンザ流行、天候不良(大雪)のためキャンセルが相次ぎ稼働率の目標を達成することができなかった。

(3)多職種共同で利用者のアセスメントを行い、心身の状況等に応じて機能訓練を実施し、日常生活を営むために必要な機能維持・回復に努めた。

4. デイサービスセンターしろみ ほほえみ

(1)介護報酬は前年度の約2,760万円から約2,228万円へ、約532万円減少した。また、稼働率は前年度の65.8%から51.6%へ減少した。

(2)利用者の重度化により家族の介護負担軽減のため、他サービスへ移行したことに伴い利用回数が減少し目標を達成することができなかった。

(3)機能訓練指導員(作業療法士)が専任となり認知症ケアの充実を図ることができた。

5. ケアプランセンターしろみ

(1)介護報酬は前年度の約1,108万円から約1,030万円へ、約78万円減少した。また、稼働率は前年度の68.3%から61.7%へ減少した。

(2)施設と地域の関係性が深まり、ロコミでの相談、依頼が増加した。

(3)相談件数は増加したが利用者の介護度が高く施設入所や亡くなる方が多く、目標稼働率の達成ができなかった。